

自主性と計画性を尊重

保科 翠さん
事務員 瀬戸河原(43歳)



我が家では昨年、一昨年と長男・次男の受験が相次ぎ、今年は一息ついているところです。

日ごろから「勉強は長い時間やればいいというものではない。自主的に集中力を持ってするものだ」と考えていた私は、二人の子供の自主性

と計画性を尊重してきました。

現在、早稲田大学に進学した長男は、細かな学習計画を立て勉強しました。長男が小1のとき何でも私に頼り過ぎると感じた私は、酷なようですが一人で勉強するようしむけました。

今にして思えば、そのときから自主性と計画性がついたと思います。

また、そうはいつでも人間ですから、計画どおり進まないこともありましたが、そんなとき、親とすれば不安ですが、小言を言うより夫や祖母ともども励ますようにしました。

知識は目と耳から

内海 繁雄さん
自営業 広見西本町(73歳)

私は幼いころ勉強嫌いだった。祖父に勉強の仕方を仕込まれ、やっと普通になったと思う。

それは、知識は目と耳より入り脳に蓄積されるもので、鼻やおへそより入るものではなく、また、手で書



くことは身体で覚えることだということ。

したがって、知識は声を出して読むことから目と耳より脳に入り、それを書くことにより、すなわち三位一体となる。

1冊の本を丸暗記することは難しい。だれでも試験のときは山をかけるものだ。その山を合併読み(声を出して読み、目と耳で理解する)し、何回も書くことだ。

ふだんそのように勉強すれば、試験で山が必ず当たる。

昨年十月に行われた国勢調査は、皆さんの記憶に新しいと思いますが、市ではほかにも工業統計調査や住宅統計など多くの統計調査を国や県の委任を受けて行っています。齊藤さんはその調査員を続けること十七年。「富士市丸い」や「日本丸」の行方を定める統計の担い手として地道にがんばってきました。



ほどになりました。

長く続けられた秘訣は、「おこつちやだめ」。対象者に気持ちよく記入してもらおうよう心がけてきたといえます。豊かな表情からは練れた人間性がうかがえました。昭和二十一年に空襲の東京から来富。詩吟・民謡・編み物を習う、三人の孫のおばあちゃんでもあります。

まだふなれなころ、対象者を訪問しても説明できず困ってしまうことがありました。今では毎年十二月三十一日現在で実施する工業統計調査の用紙を配ると、「おばさんが来ると、もうすぐお正月ね」といわれる



第36回静岡県統計大会で全国統計協会連合会長表彰を受彰

さいとうともえ
齊藤友枝さん

吉原上中町(65歳)